

# Scoop

2002年3月

ウィンドム改造ナゾのオープンカー

トヨタ

"覆面テストドライバー"が駆る  
謎のオープンカーウィンドム改を暴け！！



[zoom](#)

屋根のない、ショートホイールベースのウィンドム。これはいったい何なのか？ それにしてもテストドライバーの姿がアヤシすぎる。帽子をかぶるくらいなら、ヘルメットをかぶったほうがいいのではないだろうか。

カメラマンからの第一報はじつに衝撃的だった。

「トヨタの新型スポーツを撮った！」

スクープ班は色めき立ってカメラマンの報告を分析しはじめた。とにかく、クーペではなくオープンモデルであったことはハッキリしている。そして、比較的"大柄なクルマ"であったこと。カメラマンが覚えているのは、それくらいのことだった。

「それは非現実的じゃない？ あれってスタディモデルじゃないの？」 「でもベースをソアラにすれば、すぐ出てきてもおかしくはないよ。いまのトヨタはどんなものでも出してくる可能性がある。意外なモデルだって考えられなくはないと思うな」

「それにしたって...」

いや、それが現実ならば、こんな面白いことはない。テストコースには、どんなクルマが走っていてもおかしくはないのだから。もっとも「大柄なスポーツ」と聞いて、まず頭に浮かんだのが"ウワサの5000GT"だったのだから、決してヒトのことは言えない。

さて、しばらくするとカメラマンが写真を持って現れた。しかし、あまり表情がさえない。大スクープを撮ってきたんじゃないのか？ 「それが...。まあ、見てみてください。なんだか妙なクルマなんです」

とって差し出した写真に写っていたのは、ルーフのないウィンドムだった。

本誌で掲載するほかのテストカーと同じように、バンパー前面を黄色いネットで覆い隠し、グリルにはテーピングが施されている。それでも、ベースはウィングダムに間違いはない。しかし、そこに写っているテストカーは、単純に「ウィングダム・コンバーチブル」だなどと思えないほどのクルマだった。デキが悪い、というより雑なクルマなのだ。これは、何らかの先行試作車であることは間違いはない。

もう一度写真をよく見てみよう。ボディのベースはウィングダム。少なくとも見かけ上はそう見える。しかもルーフがない。ルーフを切断した跡は...なんとガムテープが貼ってある。そして、後部座席のあたりであろうと思われる場所には、急造のロールバーのような逆U字型のパイプが据え付けられている。

さらによく見ていくと、リアドアが見当たらないことに気付いた。サイドシル後部もおかしな雰囲気だ。どうも、ウィングダムのルーフを切断したうえに、ホイールベースも短くなっているらしい。もしかしたら、ウィングダムのボディは単なる擬装で、シャシーはまったく別物。それこそ「FRだった」なんてことだって、あり得ない話ではない。あくまでも先行試作車だと考えれば、どんな可能性も否定できないのでは...。そんなふうに考えていた矢先、ひとりがこう言った。

「次期ソラーラかもしれないね」



[zoom](#)



[zoom](#)

ヘッドランプやグリル、ショルダーのプレスラインなどでもわかるように、ベース車は明らかにウィングダムだ。ただ、ウィングダムのコンバーチブル、というにはテストカーはあまりに雑なデキだ。

トヨタが東京モーターショーの目玉として出品したFXS。車格は比較的小さめだが、構造的にも写真のクルマとはあまりリンクしない。

大穴だ！ ソラーラとは、先代カムリをベースに北米で生産・販売が行われているクーペ&コンバーチブル「カムリ・ソラーラ」のことだ。

カムリ自身は北米でも新型へと移行したが、ソラーラはまだ先代ベースのまま販売が続いている。

なるほど、カムリもウィングダムも基本は同じだ。となれば、ルーフのないショートホイールベース化されたウィングダムというのは、次期ソラーラ・コンバーチブルと「ほぼイコール」ということになる。

いや、まだあの妙なロールバーが気になる。さらに、テストドライバーがマスクと帽子で完全武装していたことも...。ま、それはテストコースにひどく花粉が舞い飛ぶだけだからなのかもしれないが。



[zoom](#)

これが先代カムリをベースとした北米専売のクーペ&コンバーチブルモデル「カムリ・ソラーラ」だ。カムリが新型へと移行してしまったいま、これの開発が進んでいてもおかしくはない。

[戻る](#)







